

早川の水の濁りについて、要望書

駿河湾特産のサクラエビが記録的な不漁になっている、この異変が現地で大きく取り上げられています。その原因について、静岡新聞（4月1日付・朝刊）では、湾に注ぐ富士川支流の早川水系の水の濁りを指摘、それがリニア中央新幹線工事によるものという可能性にふれています。この問題に対して4月2日、「リニア・市民ネット山梨」は山梨県庁を訪れ、水質の保全を求める要望書を同県に提出しました。

早川水系は南アルプスの清涼な水を集めて富士川に合流しますが、近年その濁りが著しくなっているようです。従来の雨畑ダムからの影響に加え、早川本流では、このリニア中央新幹線のトンネル工事の排水をはじめ、採石場、ダム、道路工事など、幾多の企業活動があり、その河川への影響が懸念されます。早川の水の濁りは富士川へ、そして富士川が注ぐ駿河湾の湾口へと、影響の連鎖が気になるところです。

要望書では、サクラエビの不漁とリニアトンネル工事の開始が時期的に重なっていることをふまえ、早川の水質調査、JR東海の環境保全対策に対するチェック、などを県に求めています。提出に際しては、「リニア・市民ネット山梨」の5名、県の大気水質保全課から担当者の3名が会し、川村晃生代表による要望書の要旨説明のあと、いくつか質疑応答がなされました。（赤荻記）

以下に今回提出した早川の水質検査に関する要望書を掲載します。



早川の水質検査に関する要望書

いつも県政にご尽力いただき、ありがとうございます。

さて、ここ一二年、静岡県の駿河湾におけるサクラエビが枯渇しつつあるという問題が、現地では大きく取り上げられており、その原因の一つとして富士川の水の濁りが想定されています。

さらにその状況の発生源を特定していくと、最大の可能性として富士川に流入する支流早川の濁りが想定されるのですが、そう考えると、二〇一五年一二月に着工したりニア新幹線のトンネル掘削工事と関わっているのではないかとの推測も生じてきます。それはちよとどトンネル工事着手とサクラエビの不漁とが時期的に重なるからであり、もしそうであれば、静岡のサクラエビ問題は河川流域全体の問題として、山梨県側にも責任が生じてくることもあります。

さて、静岡新聞（四月一日付・朝刊）によれば、早川の濁りがリニアのトンネル工事に拠るものという可能性が、そのひとつとして指摘できるように思われます。すなわち、上流では透明度が高く（透視度一〇〇センチ）、中流域（トンネル工事の排水口があります）で著しく悪化し（透視度一七・五センチ）、下流に行くと改善されているという事実がそれを証明しており、現状ではリニア工事以外にこれを説明することができないと思われれます。JR東海は、リニアの環境影響評価準備書において、「工事排水の適切な処理」について「工事により排出する水は必要に応じて濁水処理等の対策により、適切に処理した上で排水することで、公共用水域への影響を低減できることから、環境保全措置として採用する。」とし、また「工事排水の監視」について、「工事排水の水質を監視し、処理状況を定期的に確認することで、水質管理を徹底することができることから、環境保全措置として採用する。」としています。

さらにこれに対して、山梨県は「知事意見」として

トンネル工事に係る環境影響の把握と定期的な水質検査の実施

方法書知事意見【個別的事項】 3、3.1において、トンネルの掘削工事により有害物質等（重金属類を含む。）を含む地下水の流出が懸念されることから、湧水の放流先を明記すること、定期的に水質検査を実施し、その結果を明らかにすることを求めたが、それらについて準備書に記載がないため、次の事項を評価書に記載するよう強く求める。

- (1) 湧水の定期的な水質検査は、有害物質等が地下水に含有されていた場合、早期に発見し、迅速に対応することが可能となることから、放流先を明確にしたうえで、工事着手前からの定期的な水質検査を実施し、その結果を事業の実施中及び実施後の手続において明らかにすること。

(2) 高濃度の塩類や有害物質を含む湧水を放流する場合にあっては、放流先の河川の

状況(水質、水量等)を踏まえた放流水質を設定すること。なお、対応状況につい

ては事業の実施中及び実施後の手続において明らかにすること。

との点を要望しています。

しかし、現段階においては、J R東海の工事排水の適切な処理と監視が十分になされているのかどうか、疑われる可能性が出ており、山梨県の懸念も払拭されない状況にあります。また三月二七日付静岡新聞によれば、川勝静岡県知事が、リニア工事の排水の早川への放流が生態系についてどのように影響を与えているか調査したい旨を、長崎山梨県知事に伝えた承を得たとされています。

以上の経過をふまえて、私たちは以下のことを要望します。

一、長崎知事が静岡県側の意向を了承したということの具体的内容について、現時点で説明できる範囲でよいので、明らかにして下さい。

二、J R東海が実際にアセス評価書どおりの処理や監視をしているのか、またどのようなデータを得ているのか、明らかにするようJ R東海に要望して下さい。

三、リニアのトンネル掘削という大規模な工事が行われることで、大量の凝集剤や凝固剤が使用されています。そして、それに伴って膨大な量の希硫酸(75%濃度)等が現実に投入されており、その生態系への影響も危惧されることです。山梨県としては、これまで早川の水質検査を行ってこなかったと聞いていますが、速やかに早川の水質検査をし、濁度や成分分析の結果を示して下さい。

四、この事象は河川流域全体に影響が及ぶ問題ですから、当然県の水質管理の責任も発生すると考えますが、その点についての見解をお聞かせ下さい。

なお、右の回答をいついただけるかお示しく下さい。

二〇一九年四月二日

リニア・市民ネット山梨

代表 川村 晃生

(TEL FAX 055-252-0288)

長崎幸太郎山梨県知事 殿